

## 2021 年度 全国高校総体(福井)



1500mがスタートしたのは21時過ぎ。予定よりも1時間30分ほど遅れてのスタートです。この時点で高橋は68点差でトップ。1500mのタイムに換算すると、2位の選手のゴールから約10秒以内で走り切ることができれば優勝という状況。つい数時間前までは至って平穏な気持ちで競技を見ていられたのですが、この時点では、ここまできたら絶対に優勝してくれ！と強く願っていました。

少し話はそれますが、2年前、沖縄のインターハイでも八種競技最後の種目となる1500mを見ていました。この時も時刻は21時頃だったと思います。競技場内に人はまばら、しかし、真っ暗な海辺の競技場は照明により煌々と照らされ、力を振り絞って走る選手たちの姿がとても美しく見えました。インターハイの八種競技の最後はこういう雰囲気になるんだな、と肌で感じました。そして今、福井の地で7種目を終えた選手たちが正に死力を尽くして走っている姿は、2年前と同じように、とても美しく見えました。ただ一つ違うのは、この選手たちの中に本校の生徒がおり、なんとその生徒は一年生ながら優勝しようとしている、ということです。



結果は優勝、それも高1日本歴代最高記録更新、更にこの種目初の1年生優勝という、これ以上ない素晴らしいものとなりました。何度も全国大会で優勝や入賞を経験されている指導者であればこんなガッツポーズはしないだろう、と断言できるほど、諒が優勝した瞬間は、いかにも自分が優勝したかのようなガッツポーズをしてしまいました。最後の1500m



は第三コーナーで見えていましたが、ゴールした瞬間に優勝を確信。そこからゴール地点までスタンドを走りましたが、その時の移動速度は（自分としては）久しく感じたことのないスピード感で、「俺、まだ走れるじゃねーか！」と内心思いながら、ゴールした諒の元へ駆け寄りました。

あれから1カ月半が経ちました。この間高橋は、100mで1回、110mHでは2回、自己ベストを更新しています。先日、ほとんど練習もせず出場した400mHでは56秒で走りました。確かに、個の能力は極めて高い選手です。しかし、その高い能力は、練習に対する集中力、動きの吸収力、そして日々の積み重ねによって高められているものです。間近で見ているひとりの人間としては、そのように思います。

「3連覇を目指します」と語ったことを、雑誌を通して知りました。高校1年生で優勝した者しか3連覇は目指せませんので、この目標はとて素晴らしい目標だと思います。しかし、この極めて高い難易度をクリアするためには、充実した日々を送りつつも、時には難しい状況に立たされること、おそらくあるだろうと思います。しかし、高橋ならばそんな時でも前を向いて歩みを進めてくれることと思います。

	全国高校総体(7/28,29)		南関東大会(6/18,19)		都総体(5/8,9)	
	記録	得点	記録	得点	記録	得点
100m	11.38(-1.9)	778	11.16(-0.5)	825	11.22(-0.5)	812
走幅跳	6m95(+0.8)	802	6m72(+0.8)	748	6m49(+1.7)	695
砲丸投	10m02	487	10m70	528	10m53	518
400m	50.63	786	51.22	759	50.96	771
110mH	15.17(-0.0)	829	15.45(-0.1)	796	15.44(-1.6)	797
やり投	42m60	480	45m17	517	44m82	512
走高跳	1m86	679	1m82	644	1m78	610
1500m	4.38.91	687	4.42.08	667	4.54.78	590
前半	2854		2860		2796	
後半	2674		2624		2509	
合計	5528		5484		5305	
順位	1位		1位		1位	